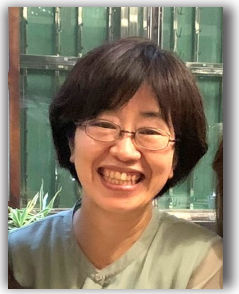
“Exploring Asian Way”（アジアの道をさぐる）
～第６回アジア産業衛生ネットワーク学会参加報告～



飯田 裕貴子
株式会社環境管理センター 基盤整備・研究開発室 技術部長

１．はじめに

第６回アジア産業衛生ネットワーク学会（Asian Network of Occupational Hygiene Conference、以下 ANOH [1)]）が、2022 年９月 19 日～ 23 日にインドネシア、バリにて開催された（**写真１**）。ANOH は、2015 年に国際労働衛生工学協会（The International Occupational Hygiene Association、以下 IOHA）の後援で設立されたアジアの産業衛生技術関係専門家の学会である。日本からは団体会員として日本作業環境測定協会と日本産業衛生学会（産業衛生技術部会）が参加している。

筆者は ANOH 日本事務局メンバーの一人であり、2022 年９月にインドネシアのバリで開催された ANOH について、日本の参加状況、学会発表の内容、参加意義、次回開催の概要を報告する。

２．諸外国および日本の ANOH への参加状況

ANOH への参加者数はこれまで 200 ～ 250 人程度で、今回は 10 カ国から、専門技術トレーニング・コース（Professional Development Course：PDC）に 70 名以上の参加者、学会には 200 名ほどの参加者があった。今回の開催はコロナ自粛の明けた直後でもあり、ANOH 日本事務局長および事務局員２名（筆者含む）とメーカー２名の現地参加であった。参考までに、これまでの日本からの参加者数は、2016 年（ベトナム） ３人、2017 年（中国） ０人、2018 年（台湾） ７人、2019 年（タイ）30 名余、2021 年（韓国、IOHA 内のセッションとして Web 開催）運営・発表 11 名＋一般参加者であった。

写真１　ANOH ボードメンバー集合写真

3．学会発表の内容

前半の PDC 2 日間ではトレーニング・コース 6 本（丸 1 日かけてのコースが 1 日に 3 本並行開催され、参加者は自分の勉強したいコースを選ぶ）、後半の学会 2.5 日間では基調講演 8 本、シンポジウム 4 本の中に 16 本の講演、また一般口頭発表が 28 本、ポスター発表が 16 本と大変盛況であった。日本からの発表は、基調講演 1 本、口頭発表 1 本、ポスター発表 1 本であった。（**写真 2、3**）

今後、ANOH への参加を検討している方にとっては、どんな演題が発表されているのかが重要な情報と考えられるため、**表 1** に専門技術トレーニング・コースおよび**表 2** に基調講演の講演タイトルと発表者、また**表 3** にシンポジウムタイトルを

写真 2　筆者口頭発表

写真 3　津田洋子氏（帝京大学）ポスター発表

表 1　専門技術トレーニング・コース（PDC）

DAY 1　8：30 - 16：00	
1	化学物質リスクアセスメント：手法、限界値、サンプリング方法（Joost G. M. van Rooij, PhD）
2	騒音の工学的管理（Iwan Prasetiyo, ST, MT, PhD）
3	産業衛生リスクマネージメント（Carey Murphy and Venessa Thelan）
DAY 2　8：30 - 16：00（PDC6 は 8：30 - 12：00）	
4	化学物質リスクアセスメント：測定、健康調査、コンプライアンス試験（Joost G. M. van Rooij, PhD）
5	CIH（認定インダストリアル・ハイジニスト）の準備（Prof. Doo Yong Park）
6	ウェアラブル労働衛生機器 - 近隣および遠隔での労働力へのメリット（Aleks Todorovic）

表 2　基調講演

番号	講演タイトル（演者）
1	アジア流を探る：チャレンジングな世界で働く人々の健康を守るために（Prof. Doo Yong Park, DrPH, CIH. Korea）
2	職場におけるメンタルヘルスと心理社会的リスク（Jacqueline Agius. Australia）
3	許容濃度に基づく新たな化学物質管理規制 - 日本で起こる大きな変化のために（Haruo Hashimoto, MPH, CIH. Japan）
4	パンデミックに挑む持続可能な労働環境 - 在宅勤務の可能性（Prof. Jean Feng-Jen Tsai, LLM, PhD. Taiwan）
5	大学での実験室安全管理計画（Dr. Ir. Sjahrul M. Nasri, MSc. Indonesia）
6	室内環境のための換気と空気浄化 - 空気感染症リスク低減のエビデンスはどの程度あるのか？（Adj. Prof. Dino Pisaniello. Australia）
7	標準化された資格認定実務によるグローバル産業保健能力の強化（Phillip Hibbs BSc. Australia）
8	フィットの化学 (Vinay Pathak. 3 M Personal Safety Division. Indonesia）

表3　シンポジウム

番号	シンポジウムタイトル
1	インダストリアル・ハイジニスト教育
2	これからのインダストリアル・ハイジニストのための COVID-19 で得られた教訓
3	インドネシア・インダストリアルハイジニスト協会の活動
4	熱ストレスと気候変動

示す（筆者和訳）。

数多くの魅力的な講演と発表があったが、特に基調講演 3 での、橋本晴男氏の講演「許容濃度に基づく新たな化学物質管理規制 - 日本で起こる大きな変化のために」では、非常に大きな反響があった（**写真 4**）。質疑の内容を紹介する。まず、オーストラリアの参加者より「オーストラリアにおいても、イギリスのローベンス報告等を参考に 1980 年代から 90 年代にかけイギリスに合わせた法制度改革を行った。現在、大企業は問題ないが中小企業では自主管理をしっかり行わないところがどうしてもあるため、現在でも行政の監視は必須であり、今後は日本でも必須なのではないか。また、ハイジニストの増強は必要である」とのコメントがあった。韓国の参加者からは「（韓国の労働安全衛生法は日本をかなり参考にしてきているため）今回のことを知ったのは驚きである（複数の大学関係専門家より）」「特に作業環境測定の規制がいずれ廃止されるというところが大変な驚きだ。是非その全貌の詳細を知りたい」、「韓国では安全衛生の問題が続発しており、社会的にも非常に問題となり、最近、法の厳罰化を進めている。日本でも今後行政からの強い監視が必ず必要だと推測する」とのコメントがあった（**写真 5**）。

4．参加意義

筆者も数年前までは、ANOH のような国際学会への参加や発表は雲の上の話だと考えていた。しかし、2016 年に初参加してから、2017 年を除いて毎年参加している。参加費用や参加時間は、国内の学会に参加するよりも多少必要になるが、それでも参加したいと思うのは、他国の産業衛生に関わる人（研究者、インダストリアル・ハイジニスト、安全衛生管理を仕事とする人）との交流が自分にとって、とても魅力的だからである。そ

写真 4　橋本氏の基調講演

写真 5　韓国の参加者からの質問

れぞれの国で、産業衛生管理の状況や技術、法令など、日本と似ている部分と異なっている部分とがある。技術については、遠隔管理など日本で注目されているトピックスは他国でも同様に注目されていて、すでにいくつかのアプリや機器が開発されている。ANOH への参加は、諸外国の新しい技術について知ると共に、日本の産業衛生管理手法や産業現場へのアプローチ方法について再考するよい機会となっている。

5．次回開催

次回の ANOH は 2023 年 8 月 28 ～ 30 日（PDC コースを除く学会のみの期間）にフィリピン マニラで開催される。日程などの詳細は決まり次第、日本産業衛生学会 産業衛生技術部会のホームページ[2] 等で案内させていただく予定である。今年よりさらに多くの方が発表や参加申し込みをしてくださり、現地でご一緒できることを願っている。

【参考文献】

1）ANOH ホームページ
http://anoh.net/html/
2）日本産業衛生学会産業衛生技術部会
http://jsoh-ohe.umin.jp/